

病よりも人を診ることを起点に。

最先端・最良の医療を社会へ



金沢大学医薬保健研究域医学系
呼吸器外科学 教授
まつもと いさお
松本 勲氏

1991年 金沢大学医学部医学科卒業
1992年～公立能登総合病院外科、小松市民病院外科、横浜栄共済病院胸部心臓血管外科等勤務
2003年 金沢大学医学部附属病院(現金沢大学附属病院)心臓・総合外科 助手(現助教)
2009年 金沢大学附属病院 呼吸器外科 臨床准教授

2014年 金沢大学大学院医学系研究科 心肺病態制御学 准教授
金沢大学附属病院 呼吸器外科 臨床教授、科長
2015年 金沢大学大学院医学系研究科 先進総合外科学 准教授
2020年 金沢大学大学院医学系研究科 呼吸器外科学 准教授
2023年 金沢大学大学院医学系研究科 呼吸器外科学 教授

令和2年、金沢大学外科はナンバー1科を廃して臓器別再編を実施。令和5年元旦、松本勲先生は金沢大学呼吸器外科学教授に就任。歴史ある講座を継ぐ決意と、先進的な研究と診療への取り組みについてお聞きしました。

**伝統と先進を見据え
肺癌治療に力を尽くす**

呼吸器外科講座は、全国的にも分野の中心的存在であり、世界的な業績を積み上げてきました。この伝統を守りつつ、最先端の診療と研究に取り組んでいます。

診療においては、肺癌を筆頭に、呼吸器外科疾患全般に対して年間300件ほどの手術を実施しています。これは北陸随一の件数です。低侵襲手術やロボット手術も積極的に行うとともに、北陸の胸部悪性腫瘍治療の最後の砦の気概で、サルベージ手術のような、他院では困難である術式にも対応しています。サルベージ手術とは、放射線や薬物による根治治療をしても、がんの遺残があったり、局所再発が

見つかったりした場合に行われるものです。腫瘍が背骨や大動脈に浸潤しているケースもあるため、難度の高い手術となります。また、わずか3・5cmだけ開く単孔式胸腔鏡手術も行っています。損傷する肋間数が少ないことから疼痛を少なくできる低侵襲な術式です。

早期の気管・気管支癌に対しては光線力学療法を導入しています。これは、特殊な光を照射すると化学反応を起こし、活性酸素の一種を発生させる物質を体内に投与して、腫瘍のみを攻撃するという療法です。この療法を受けられるのは日本海側では当科だけです。

**研究も教育も
患者さんへ還元するために**

研究面では、蛍光物質であるピ

タミンB2を用いたリンパの流れや肺区域を同定する方法の開発、自己心膜で造った導管を用いて気管を再建する研究、低線量のX線撮影した動画により換気や血流など肺機能を検査する方法の開発、肺移植や臓器再建の基盤整備など多様なテーマに挑んでいます。

高水準な他の診療科と連携できるのも大学病院の強みの一つでしょう。当科の肺癌治療では、呼吸器内科や放射線科、病理部などととも、化学療法や放射線療法を含む先進的集学的治療を行っています。また、腫瘍摘出後の背骨や血管の再建も、整形外科や心臓血管外科と協働しています。

指導に関して言えば、私自身、「自分が診てほしい」と思えるような医師でありたいですし、そういう医師を育てたい。たとえば、手術では、術野だけ

を見るのではなく、患者さんを見て見る。切除すべきところだけを可能な限り小さく切り、残せるところは残す。患者さんのQOLを尊重することが基本です。日頃の診察も謙虚な心をもって、患者さんへの礼儀を大切にすべきでしょう。また、研究成果は臨床に還元すること、社会に貢献することを念頭に置くように、と若手に説いています。



内視鏡のモニターに集中しながら手術を進める松本教授